

目的 からにづきの類型化を進める上で、とりあげに項目群がどのような特性を持つことを知ることは重要である。そこで上記特性を把握し、生長期区分の基礎資料を得ることを目的として、生長途上に在る集団の身体測定値に主成分分析を施し、要約された総合特性値、それらの生長に伴う変化並びに性差等から検討を試みた。

資料並びに方法 1971・72年計測の生長期男女7～20歳各年齢約800例の身体測定値原票を資料とした。衣服設計・衣服サイズ設定上重要と考えられる15項目をとりあげ、性別年齢群別に主成分分析を施し、バリマックス回転後の固有値・固有ベクトル・因子負荷量等から考察を進めた。尚、皮脂厚・体重についてはそれぞれの対数値・立方根を使用した。

結果 1. 男子と低年齢群女子では、第1主成分にsize factorが、第2主成分にshape factorが、第3主成分に皮脂厚のみに高く負荷する主成分が、高年齢群女子では、第2主成分に皮脂厚も含めたshape factorが、第3主成分に頭囲のみに高く負荷する主成分が抽出された。2. 固有値1.0以上を示すのは多くの年齢群で男子では第3主成分まで、女子では第2主成分までである。3. 累積寄与率は男子では第1主成分で約40～60%、第2主成分までで約60～75%、第3主成分までで約70～80%であり、女子でもほぼ同様の傾向を示す。

以上の結果から、男子及び低年齢群女子では皮脂厚の他の項目からの独立性が高く、周径項目の大小は皮脂厚より骨や筋の発達の影響を受け、他方、生長のほぼ停止した高年齢群女子では周径項目の大小に皮脂厚が大きく関わっているのではないかと推測される。又、男女ともに生長段階を知る上で、皮脂厚のもつ意味の重要性が予想される。